

年間指導計画

担当教員名	神山・瀧川		
教科の名称	工業・アートクラフト		
科目の名称	アートクラフトⅠ		
使用教科書	なし		
指導学年・学科	1学年・アートクラフト科		
単位数	2		
科目の目標	金工技法(鍛金、鑄金、彫金)を学ぶ。		
評価の観点	金工技法に関連する知識の理解が出来たか。		
学期	指導項目	指導内容	配当時間
前期	接合について	機械的接合、溶接(軟ろう付け、硬ろう付け、アーク溶接、ガス溶接、電気抵抗溶接、鍛接)などについての関連知識。	39
	鍛金技法について	道具の種類、地金取り、絞り技法についての関連知識。	
後期	鑄金技法について	各種鑄金技法についての関連知識。 石膏について。 蠟について。	39
	彫金技法について	彫る技法、打つ技法、嵌める技法についての関連知識。	
	表面処理について	各種表面処理法についての関連知識。	
計			78

年 間 指 導 計 画			
担当教員名	瀧川(鑄金)・宇高(彫金)・藤原(鍛金)		
教科の名称	工業・アートクラフト		
科目の名称	工業技術基礎		
使用教科書	工業技術基礎		
指導学年・学科	1学年・アートクラフト科		
単位数	4		
科目の目標	金属工芸の基本技法の習得。		
評価の観点	作品制作の知識・技術を理解し、計画通りの作品が完成したか。		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配 当 時 間
前 期	鑄 金 卓上ベルの制作	ロストワックス、緋線中子法によるブロンズ卓上ベルの制作をとおして、金属工芸関連の知識・技術を学ぶ。	52
	彫 金 指輪の制作	純銀の溶解から擦り出しによる指輪制作を通して、金属工芸関連の知識、技術を学ぶ。	52
後 期	鍛 金 小鉢の制作	銅板による鍛金小鉢の制作をとおして、金属工芸関連の知識・技術を学ぶ。	52
計			156

年 間 指 導 計 画			
担当教員名	井上(絵画)・宇高(デッサン)・垣内(デザイン)		
教科の名称	工業・アートクラフト		
科目の名称	実習A		
使用教科書	なし		
指導学年・学科	1学年・アートクラフト		
単位数	3		
科目の目標	作品制作に必要な、基本となる絵画・デッサン・デザインを学ぶ。		
評価の観点	適正な構図や着彩が執られているか否か。 立体を正確に把握し、対象を正確に描写することが出来たか。 ポスターカラーや色鉛筆などを正確に使用して、イメージとおりの作品が出来たか。		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配 当 時 間
前 期	絵 画 透明水彩の作成	透明水彩絵の具を用いて写実的な静物画や人物画を制作する。 構図、用紙、絵の具についての扱い方を指導する。	39
	デッサン 静物デッサンの作成	静物デッサンを通して、鉛筆の使い方や構図、質感、立体感の表現方法と、デッサンの意味を理解させる。	39
後 期	デザイン 平面構成の作成	ポスターカラーと筆の使い方を指導し、平面構成を制作させる。 パターンデザインと装飾デザインを制作させる。	39
計			117

年 間 指 導 計 画			
担当教員名	垣内		
教科の名称	工業・アートクラフト		
科目の名称	アートクラフト製図		
使用教科書	機械製図		
指導学年・学科	1学年・アートクラフト科		
単位数	2		
科目の目標	製図の基礎を学ぶ。		
評価の観点	作図することにより製図機器の使用法を理解できたか。 モノ作りに必要な製図の基礎を理解できたか。		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配 当 時 間
前 期	線の文字の練習 投影図の作図	文字の書き方と線の練習をし、基礎・基本を身に付けさせる。	4
		図形の練習をし、応用テクニックを身に付けさせる。	6
		投影図の基礎を学び、第三角法による製図がかけられるようにする。	5
		ボルト・ナットの作図方法の説明と実習。	5
		鉛筆削り器本体の作図実習。	19
後 期	投影図の作図 等角図とテクニカルイラストレーションの練習	鉛筆削り器部品図等の作図実習。	33
		等角図の基礎を学び、テクニカルイラストレーションの基本を身に付けさせる	6
計			78

年 間 指 導 計 画			
担当教員名	井上		
教科の名称	工業・アートクラフト		
科目の名称	アートクラフトⅡ		
使用教科書	なし		
指導学年・学科	2学年・アートクラフト科		
単位数	1		
科目の目標	1学年で学んだ色彩の基礎理論をふまえ、平面構成において美的な表現力を獲得する。またその為の努力を身に付け、達成感を会得する。		
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・欠時、授業準備、集中力。 ・明度・彩度・色相の三要素と種類の構成要素を有効活用できているか否か。 ・色料の扱いが良いか否か。 ・全体として完成度が高く、作品としてのレベルを獲得できているか否か。 		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配 当 時 間
前期	色彩学応用	「デザインの色彩」を用いて理論的な側面の強化を図りながら実技指導を行う。 1 黄金矩形の画面を使って 2 正方形の画面を使って 3 正円の画面を使って	
	1幾何形体の平面構成		6
	・補色の家族色を扱う		6
	・トライアードの色彩を扱う	6	
	・制限の無い扱い		
後期	色彩学応用	「デザインの色彩」を用いて理論的な側面の強化を図りながら実技指導を行う。 1 立方体を立体表現する 2 円柱を立体表現する 3 円錐を立体表現する 4 幾何形体を立体表現する	
	2色と立体表現		5
	・トーンを整えた表現		5
			5
		6	
計			39

年 間 指 導 計 画			
担当教員名	瀧川		
教科の名称	工業・アートクラフト		
科目の名称	アートクラフトデザイン		
使用教科書	なし		
指導学年・学科	2学年・アートクラフト科		
単位数	2		
科目の目標	透視図、表示法からプレゼンテーションまでを学ぶ。		
評価の観点	透視図法が理解され自分で考えた作品の表示ができたか。 各自の考えたテープカッターをデザインの図面及びレンダリングで表現できたか。		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配 当 時 間
前 期	透視図法の理解と表示	一点透視図の表示法を学び、課題を作成する。	5
		二点透視図の表示法を学び、課題を作成する。	5
		円の透視の表示法を学び、課題を作成する	5
		図形の拡大、縮小	5
		トロフィーのデザインを考え、透視図法に表示する。	5
	レンダリングの理解と表示	ペンシルドローイングを理解し、課題を作成する。	5
ハイライトドローイングを理解し、課題を作成する。		9	
後 期	レンダリングの理解と表示	カラーペンドローイングを理解し、課題を作成する。	5
	プレゼンテーション	テープカッターのデザインを考え、プレゼンテーションパネルにまとめ表示する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各自の考えたデザインを投影図に描く(4) ・ 投影図を基に透視図を描く(10) ・ 透視図を基にレンダリングを描く(10) ・ 各表示作品を効果的にパネルにレイアウトする(10) 	34
計			78

年 間 指 導 計 画			
担当教員名	山田(パート・ド・ヴェール)・瀧川(精密鑄造)・宇高(彫金)・藤原(鍛金)		
教科の名称	工業・アートクラフト		
科目の名称	実習A		
使用教科書	なし		
指導学年・学科	2学年・アートクラフト科		
単位数	4		
科目の目標	アートクラフトの様々な技法の技術を深め、幅を広げて工芸品制作の技術と知識を学ぶ。		
評価の観点	パート・ド・ヴェールの知識・技法を正しく理解し、完成度の高い作品が出来たか。 精密鑄造の知識・技法・機器の操作法を正しく理解し、完成度の高い作品が出来たか。 彫金加工技術の知識・技術を理解し、完成度の高い作品が出来たか。 鍛金技法の知識・技術を理解し、完成度の高い作品が出来たか。		
パート	指導項目	指導内容	配当時間
パート・ド・ヴェール	レリーフの作成	粘土でレリーフの原型を作り、パート・ド・ヴェールでガラスの作品を制作させる。	38
	立体の作成	粘土で立体の原型を作り、パート・ド・ヴェールでガラスの作品を制作させる。	40
精密鑄造	ジュエリーの制作	ロストワックス技法によるスターリングシルバーや黄銅のジュエリー制作させる。	78
彫金	切り嵌め象嵌の制作	切り嵌め象嵌による小箱の制作をさせる。	78
鍛金	花器の制作	銅板による手絞り花器の制作をさせる。	78
計			156

年 間 指 導 計 画			
担当教員名	藤原(コンピューターグラフィックス)・垣内(テクニカルイラストレーション)・塙(デザイン)		
教科の名称	工業・アートクラフト		
科目の名称	アートクラフト実習B		
使用教科書	なし		
指導学年・学科	2年・アートクラフト科		
単位数	2		
科目の目標	イラストレータの使い方を理解する。 立体図を通し製図機器の取扱を学ぶ。 装飾的な構成を学び、丁寧な制作を行う。		
評価の観点	イラストレータの使い方を理解し、イメージ通りの作品が作成出来たか。 立体図を作成しながら製図技術を展開し、立体の認識を獲得したか。 ポスターカラーや色鉛筆などを正確に使用して、イメージ通りの作品が出来たか。		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配 当 時 間
前 期	基本的な平面構成の作成。	基本的な図形を使い、平面構成を作成させる。	9
	ロゴマークの作成。	いろいろなフォントと図形を組み合わせ、ロゴマークを作成させる。	10
	地図の作成。	線の応用と図形を組み合わせ、地図を作成させる。	10
	パンフレットの作成。	画像を取り込み、パンフレットを作成させる。	10
	等角図の演習	基礎的形態の等角図を作成させる。	15
後 期	テクニカルイラストレーションの演習	一年次での製図課題を利用し、テクニカルイラストレーションを完成させる。	24
	デザインの作成 1、色面分割	色鉛筆を使用して、平面構成を行う。	9
	2、具象物のデザイン 3、装飾文様	具象物の簡略表現。 装飾的なレイアウトと彩色技法。	15 15
計			117

年 間 指 導 計 画			
担当教員名	藤原(情報技術基礎)・宇高(模写)		
教科の名称	工業・アートクラフト		
科目の名称	情報技術基礎		
使用教科書	情報技術基礎		
指導学年・学科	2学年・アートクラフト科		
単位数	2		
科目の目標	画像処理ソフト・スキャナ・デジタルカメラの基本と操作法を学ぶ。 描画材料及び各技法の基礎と応用を学ぶ。		
評価の観点	スキャナ・デジタルカメラを使い、画像処理ソフトでイメージ通りの作品を作成出来たか。 原作者の精神にどれだけ肉迫して表現することを獲得出来たか。		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配 当 時 間
前 期	スキャナーの操作法	スキャナーの使い方とデータの保存について説明する。	9
	デジタルカメラの操作法	デジタルカメラの使い方とデータの保存について説明する。	10
	画像処理ソフトの操作法の説明	基礎から応用までの操作について説明する。	20
	模写の作成	各自に題材を選択させ、画材を適宜組み合わせて用い、F8程度の作品を制作する。	24
	自画像の作成	模写で扱った作家の作風にならい、自画像を制作する。	15
後 期	スキャナーの操作法	スキャナーの使い方とデータの保存について説明する。	9
	デジタルカメラの操作法	デジタルカメラの使い方とデータの保存について説明する。	10
	画像処理ソフトの操作法の説明	基礎から応用までの操作について説明する。	20
	模写の作成	各自に題材を選択させ、画材を適宜組み合わせて用い、F8程度の作品を制作する。	24
	自画像の作成	模写で扱った作家の作風にならい、自画像を制作する。	15
計			78

年 間 指 導 計 画			
担当教員名	井上(デッサン)・垣内(造形)		
教科の名称	工業・アートクラフト		
科目の名称	選択		
使用教科書	なし		
指導学年・学科	2学年・アートクラフト科		
単位数	2		
科目の目標	進学系のデッサン力を身につける。 紙立体の展開図の理解と制作演習。		
評価の観点	短時間でモチーフラしい形態感を表現できたか。 短時間で丁寧に紙立体が制作できるか。		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配 当 時 間
前 期	デッサン 石膏デッサンⅠの作成	構図・シルエット・立体感等の表現方法を指導する。	39
	造形 粘土造形 紙造形	立方体・静物造形の表現方法。 立方体を基にいろいろ発展させる(分割・組み合わせ)。 正多面体を作成させる。カライドサークルを作る。	10 29
後 期	デッサン デッサンⅡの作成	構図・シルエット・立体感等の表現方法を指導する。	39
	造形 紙立体 ワイヤ造形	立方体を基にいろいろ発展させる(分割・組み合わせ)。 正多面体を作成させる。カライドサークルを作る。 ワイヤーを使った造形技術。	10 29
計			78

年 間 指 導 計 画			
担当教員名	藤原・垣内		
教科の名称	工業・アートクラフト		
科目の名称	アートクラフトⅡ		
使用教科書	なし		
指導学年・学科	3学年・アートクラフト科		
単位数	2		
科目の目標	様々な角度から創造のアイデア、表現方法を探り、グループでまとめる。 宝石の基礎知識や取り扱い方を学ぶ。		
評価の観点	グループ作業の中で個々の考えを構築出来たか。 宝石の適切な取り扱い方がわかる。		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配 当 時 間
前 期	課題に即したヒントを与える	課題ごとに資料を収集、提示させて考えさせる。 プロダクトデザイン	20
	ダイヤモンドの基礎知識	ダイヤモンドの特性から適切な取り扱い方を考える。	19
後 期	作品制作	グループ内でまとめたものを作品化する。 プロダクトデザイン	19
	カラーストーンの基礎知識	各カラーストーンの特性から、宝石の適切な取り扱い方を考える。	20
計			78

年 間 指 導 計 画

担当教員名	松井		
教科の名称	工業・アートクラフト		
科目の名称	アートクラフトデザイン		
使用教科書	なし		
指導学年・学科	3学年・アートクラフト科		
単位数	2		
科目の目標	デザインの基本を見直し、完成度の高い作品を制作する		
評価の観点	様々な角度からデザインのイメージを膨らませ、そのイメージどおりのデザインを正確に表現することができたか。		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配 当 時 間
前 期	パターンの作成	連続的な動きを意識した、パターンデザインの紙立体を作成させる。	10
	紙立体の作成	動物をテーマに、紙のフォルムを使った立体造形を作成させる。	29
後 期	色彩・構成の発展	色彩についての理解を深め、質感表現と平面上での立体表現を学ばせる。	19
	作家と作品の研究発表	自分の好きな作家や作品について考え、作品と自分をテーマにプレゼンテーションさせる。	20
計			78

年 間 指 導 計 画			
担当教員名	井上(鑄金)・宇高(彫金)・神山(鍛金)・瀧川(ジュエリー)		
教科の名称	工業・アートクラフト		
科目の名称	課題研究		
使用教科書	なし		
指導学年・学科	3学年・アートクラフト科		
単位数	5		
科目の目標	アートクラフト科の集大成としての卒業作品制作を、デザインから制作までを自主的に行う。		
評価の観点	各技法で高度な技術を習得し、イメージとおりの作品が出来たか。		
パート	指導項目	指導内容	配当時間
鑄金	卒業制作の作成	デザイン・計画の指導 モデル制作の指導 作品制作全般・加工法の指導 まとめ	20 30 140 5
彫金	卒業制作の作成	デザイン・計画 モデル制作 作品制作全般・加工法の指導 まとめ	20 30 140 5
鍛金	卒業制作の作成	デザイン・計画 モデル制作 作品制作全般・加工法の指導 まとめ	20 30 140 5
ジュエリー	卒業制作の作成	デザイン・計画 モデル制作 作品制作全般・加工法の指導 まとめ	20 30 140 5
計			195

年 間 指 導 計 画			
担当教員名	松井(デッサン)・垣内(彫金)・岩田(七宝)・神山(テープカッター)		
教科の名称	工業・アートクラフト		
科目の名称	実習A		
使用教科書	なし		
指導学年・学科	3学年・アートクラフト科		
単位数	5		
科目の目標	芸大、美大合格水準のデッサン力を身につける。 高度な鑿の使用法と仕上げ(表面処理)の仕方を習得する。 有線七宝の基本技術の修得が成され、鑑賞に耐える高度な作品制作をする。 テープカッターをデザインに応じた適切な方法で完成させる。		
評価の観点	モチーフらしい形体感を表現出来たか。 鑿を適切に使って打ち出しの作品が制作できたか。 有線七宝の特性を生かした作品が出来たか。銀線による埴線、釉薬の美しさを表現出来たか。 実際に使用できるテープカッターが適切な材料と技術により制作できたか。		
パート	指導項目	指導内容	配当時間
デッサン	デッサンの作成 石膏デッサン 静物デッサン 立体構成	構図、シルエット、立体感、質感等の表現方法を指導する。 構図、シルエット、立体感、質感等の表現方法を指導する。 油土を用いて、塑像の指導をする。	98/97
彫金	レリーフの作成	彫金技法により打ち出し技術を習得させる。 動物を主にモチーフにしたレリーフの制作をさせる。 完成後額装させる。	20/20 75/75 5/5
七宝	有線七宝の作成	植物をモチーフとした有線七宝の基本技術を修得させる。	98/97
テープカッター	テープカッターの制作	2年アートクラフトデザインの授業でデザインしたテープカッターを各種材料により制作させる。	98/97
計			195

年 間 指 導 計 画			
担当教員名	藤原(アートクラフトプレゼンテーション)・神山(鍛金)		
教科の名称	工業・アートクラフト		
科目の名称	選択・A		
使用教科書	なし		
指導学年・学科	3学年・アートクラフト科		
単位数	2		
科目の目標	コンセプトを考え、表現できるようになる。 単純な形の成形をイメージとおりに行う。		
評価の観点	コンセプトにあった表現ができたか。 鍛金技法を利用し、家庭用品を身近にとらえられるか。		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配 当 時 間
前 期	アートクラフトプレゼンテーション ポートフォリオの制作	素材の収集方法、撮影方法を指導する。	39
	鍛金 銅製片手鍋の製作	本体の地金取り・焼きなまし・酸洗い・絞り・均しの指導をする。 取手の焼きなまし・酸洗い・絞り・均しの指導をする。	25 14
後 期	アートクラフトプレゼンテーション ポートフォリオの制作・名刺の制作	ポートフォリオの制作・名刺の制作させる。	39
	鍛金 銅製両手鍋の製作	本体の地金取り・焼きなまし・酸洗い・絞り・均しの指導をする。 取手の焼きなまし・酸洗い・絞り・均しの指導をする。	25 14
計			78

年 間 指 導 計 画			
担当教員名	神山(トンボ玉)・垣内(光造形)		
教科の名称	工業・アートクラフト		
科目の名称	選択・B		
使用教科書	なし		
指導学年・学科	3学年・アートクラフト科		
単位数	2		
科目の目標	基本的なトンボ玉の制作技法を習得する。 CADの特性を生かした造型感覚を習得する。		
評価の観点	学んだ技法で作品が制作できたか。 CADの特性を生かした造型感覚を習得できたか。		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配 当 時 間
前 期	トンボ玉	基本的な玉の作り方を学ぶ。	39
	彫塑	ソフトの操作方法を習得させる。 CADの特性を理解させる。	39
後 期	トンボ玉	レース玉を作るなど技法の展開を図る	39
	CAD	CADの特性を生かしたジュエリーを制作させる。 光造形機による原型制作と鋳造	39
計			78

年 間 指 導 計 画			
担当教員名	藤原(映像処理)・松井(デッサン)		
教科の名称	工業・アートクラフト		
科目の名称	選択・C		
使用教科書	なし		
指導学年・学科	3学年・アートクラフト科		
単位数	2		
科目の目標	ノンリニアによるデジタル映像の編集。 基本形体の把握を深め、美大合格水準のデッサン力を身に付ける。		
評価の観点	画像編集ソフトの使い方を理解し、イメージ通りの作品が完成したか。 短時間でモチーフらしい形体感を表現できたか。		
学 期	指 導 項 目	指 導 内 容	配 当 時 間
前 期	画像編集 基礎作品の作成	画像ソフトの基礎的な使い方の指導 基礎作品の作成	10 29
	デッサン デッサンⅠの作成	構図・シルエット・立体感等の表現方法を指導する。	39
後 期	画像編集 応用作品の作成	ソフトの応用的な使い方の指導 応用作品の作成	10 29
	デッサン デッサンⅡの作成	構図・シルエット・立体感等の表現方法を指導する。	39
計			78